

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 12 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	4076400193		
法人名	有限会社 グループホームほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	福岡県飯塚市勢田173-3 〒 820-1111 (電話) 09496-2-4623		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年12月8日	評定確定日	平成21年3月3日

【情報提供票より】(平成 20 年 11 月 17 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 3 月 10 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 1 人	非常勤 8 人 常勤換算 5.8 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1 階建ての～	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(11 月 17 日現在)

登録人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	8 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	名	要介護 4	名		
要介護 5	名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 78 歳	最低 51 歳	最高	94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	頤田病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑豊かな山々の裾野に広がる田園風景は、古きよき日本を彷彿とさせ、自然豊かな環境の中にあるホームである。平屋のｽｰﾊﾟｰﾏｰｹｯﾄを改築したホームであり、開所にあたり町内会長の力添えを得るなど、地域との連携はスムーズに図られている。また、系列ホームも含めて同一理念の基でのケアの提供が行われており、「その人らしく」に視点をおき、地域とのかわりを意識しながら個別支援が行われている。ホームは、一つの大家族として、利用者間および職員との間で役割が出来ており、利用者・職員ともその役割を尊重し、お互いに精神的に寄り添いながら日々の生活が繰り広げられている。此の「大きな掃きだし窓からは外の景色を眺めることができ、利用者がコタツでくつろぐ姿と穏やかな表情から、安心してゆっくりと過ごしている様子が伺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を受けて、利用者の人となり分かるような記録の書き方に努めるなど、質の向上に向けた具体的な取組みがある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、職員の意見を聞きながら管理者が取りまとめるなど、職員がかかわっての取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、老人会会長及び副会長、行政担当職員、公民館長、婦人会代表等の参加により、2ヵ月毎の開催がある。運営推進会議時に、ホームの現状についての報告、地域の行事等についての情報を得ての参加、家族参加を得やすい日程についての検討など、運営推進会議を活かした取組みがある。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時、その都度の電話連絡、年2回の家族会などを通じて、家族の意見を表出するよう努めている。出された意見等については、ミーティングや申し送り時に協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加盟しており、2ヵ月に1度老人会主催の誕生会への参加、町内の草むしり、敬老会、夏祭りなどの行事への参加がある。利用者は地域出身者が多く、知人の方がホームに立ち寄りなど、自然な“おつきあい”が繰り広げられている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	系列ホームも含めて、同一理念の基でのケア の提供が行われている。「その人らしく」に視 点をおいて、地域とのかかわりを意識しながら 個別支援が行われている。今月の家族会時に承 認を得た後、地域を意識した理念を追加予定で ある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホール、リビング内等に理念を掲示し、 常に理念が目につくような工夫がある。毎日の 申し送り時や月に1度のミーティング時に、理 念を意識したケア提供についての説明が行われ るなど、理念の浸透への取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	町内会に加盟しており、老人会主催の誕生会 への参加、町内の草むしり、敬老会、夏祭りな どの行事への参加がある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果を受け、利用者の人となり が分かるような記録の書き方に努めるなどの取 組みがある。また、運営推進会議や家族会を利 用しての報告がある。今回の受審にあたり、職 員の意見を聞きながら管理者が取りまとめる など、職員がかかわっての取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	運営推進会議時に、ホームの現状について の報告、地域の行事等についての情報を 得ての参加、家族参加を得やすい日程 についての検討などが行われ、会議を 活かした取組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進 会議以外にも行き来する機会をつくり、 市町村とともにサービスの質の向上に 取り組んでいる	運営推進会議への行政担当職員の参加 がある。また、月に1度の介護相談員 の受入れを行うなどの取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護 事業や成年後見制度について学ぶ機会 を持ち、個々の必要性を関係者と話し 合い、必要な人にはそれらを活用で きるよう支援している	制度等について、契約時に家族への 説明がある。職員への制度等について の説明や家族への繰り返しの説明など、 周知を図る取組みはこれからである。		運営推進会議や家族会等を利用して、 行政担当職員の方から制度についての 説明をしていただくなど、広く情報 を発信し、繰り返しの説明と周知に 努めていただくことを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあ わせた報告をしている	家族面会時、その都度の電話連絡、 年2回の家族会などを通じて、さま ざまな内容についての報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理人 理者や職員ならびに外部者へ表せる 機会を設け、それらを運営に反映さ せている	家族面会時、その都度の電話連絡、 年2回の家族会などを通じて、家族 の意見を表出するよう努めている。 出された意見等については、ミー ティングや申し送り時に協議する などの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理人 理者や職員による支援を受けられる ように、異動や離職を必要最小限に 抑える努力をし、代わる場合は、利 用者へのダメージを防ぐ配慮をして いる	この1年間での辞職は1名と少なく、 辞職した方の再雇用に努めるなど、 利用者との馴染みの関係性の維持が 出来ている。新しい職員が入職し た場合は、利用者とのコミュニケーション を密に取るように努めるなど、 馴染みの関係づくりへの取組みが ある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用時なんらの制限は行われていない。技術ではなく人間性を重視しての採用である。料理の得意な職員が調理を担当したり、各種資格取得を目指す職員に対して勤務体制を考慮するなど、職員の自己実現に向けた取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政主催で行われる講話等への参加がある。参加後は、報告書を作成し、職員間で回覧するなど、情報の共有に努めている。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を得て、順番に参加させるなど、職員間で均等に外部研修への参加の機会が得られるような工夫がある。外部研修参加後は、報告書を作成し、職員間で回覧するなど、情報の共有への取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員個人レベルで、他のグループホームへの見学等の実施がある。事業所間での職員の交流や連携等については、今後の課題である。		他事業所との交流・連携に関して、考え方の違い等、さまざまな問題もあろうかとは思いますが、少しずつでも他事業所との交流・連携を実践していただき、職員間の相互研修や情報交換等の機会の確保に努め、質の向上に向けた取り組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の体験利用が可能である。入居直後は、頻回な家族面会を通じて精神的な落ち着きが得られるような取組みがある。利用者のほとんどが近隣地域の方であり、利用者同士や利用者職員が顔見知りであるなど、スムーズな利用へと繋がっている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一つの大家族として、利用者間および職員との間で役割が出来ており、利用者・職員ともに精神的な部分で寄り添い、学びあおうとする姿勢がうかがえた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年1回のアセスメントや日々のかかわりの中で、利用者の意向や思いを把握し、面会時の声かけや電話連絡などを通じて家族の思いや希望の把握に努めている。把握した情報を共有するための方法が不十分である。		終末期の意向の把握も含め、本人が何を望んでいるのか、どうしたいのか、何が出来るのか等、生活を支える為のアセスメントとしてセンター方式を一部取り入れるなど、日常のかかわりの中で把握した情報の蓄積と共有に努め介護計画に反映させる等の取組みを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族・本人の希望や思い等を基に、職員の意見を聞きながら、介護計画の作成がある。作成された介護計画書は、概ねケアする側の目線からみた内容であり、利用者の目線に寄りそって、希望や出来る事等に注目した利用者本位の介護計画の作成は、今後の課題である。		利用者一人ひとりの思いや希望を大切にす生活の実現、利用者が出来る事、する必要が有ることは役割と位置付けるなど、利用者の目線に立ち個別支援の観点に基づいた利用者本位の介護計画の作成に期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	6ヶ月毎及び状態変化時に伴うその都度の介 護計画書の作成がある。月に1度程度の利用者 本人の意向の確認や職員の気づきのとりまとめ 等については、今後の課題である。		状態等の変化のあるなしにかかわらず、 チームケアの観点から、月に1度程度は全ての 職員の気づきを取りまとめ、利用者の現状の 把握と情報の共有に努めていただくことを期 待します。
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	地域高齢者の方々に対して、歌や踊りの発表 の場所としてホームを開放したり、利用者の希 望する場所への外出支援など、その時々に応じ た支援がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	利用者の今までのかかりつけ医を基本とし て、ホーム協力医院との連携が図られている。 今までのかかりつけ医や専門科への受診は家族 対応である。また、ホーム協力医院の往診があ る。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応指針」を家族 会時に説明を行い、家族より委任状をいただく など、家族の意向の把握への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者間および職員との間で役割が出来てお り、その役割を重んじての声かけや対応等が見 受けられた。また、利用者の希望にそった呼称 を用いるなど、利用者一人ひとりを尊重した対 応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしてのある程度の流れはあるもの の、日中の過ごし方、食事や入浴にかかる時間 など、生活全般において利用者の希望に応じた 対応がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	利用者の希望を聞きながら、職員が献立を作 成しホームで調理している。下膳や片付けな ど、利用者の出来る事を生かして職員と一緒 に行っている。食事を作る際の音や匂いなど、五 感へ働きかけ、食事が楽しみとなるような工夫 がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	夏場は1日おき、冬場は2日おきの入浴実施で ある。必要に応じて、その都度のシャワー浴や 足浴の実施がある。午後から夕方までの間で、 利用者の希望に沿った入浴が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	絵の作成、将棋、麻雀、畑仕事、草とり、配 膳、洗濯物たたみなど、利用者の楽しみや出来 る事を把握しての取組みがある。利用者間およ び職員との間で役割が出来ており、その役割を 尊重した支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日々の散歩、買物、町内誕生会への参加、月 に1度の外食、コンサートや寄席など利用者の 希望に沿った外出など、その時々希望や計画 立てての外出支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠している。職員は、利用者の 状況を良く観察しており、機会を見ては一緒に 外出するなどの取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署員の指導の基、避難訓練の実施があ る。避難訓練の際に指導を受けた避難口の確保 について、検討中である。次回の運営推進会議 時に、地域の協力を得るための働きかけを行う ように取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望を聞きながら、職員が献立を作 成しホームで調理している。野菜をふんだんに 使用し、出汁を利かせ塩気を抑えた味付けと なっており、利用者の健康に配慮した内容であ る。1日1500ccを目標に水分摂取を促すなど、 水分不足にならないための配慮がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールは、利用者の作品や花、クリスマ スツリー等、季節を意識した飾りつけとなっ ていた。リビングの大きな掃きだし窓からは外の 景色を眺めることができ、利用者がコタツでく つろぐ姿から、ゆっくりと過ごしている様子が 伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	小物入れや写真、仏壇、過去帳、ぬいぐるみ など、馴染みのものや思い出のものが持ち込ま れており、利用者の人となりが見える居室で あった。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号